

An aerial, black-and-white photograph showing a large, sprawling complex of multi-story buildings. The architecture appears to be institutional or governmental, with numerous windows and flat roofs. The complex is surrounded by a dense forest of trees, and a road or path is visible in the foreground. The image has a grainy, high-contrast quality.

計画中也含め公的施設20カ所以上

戦争のむごさ、平和の大切さを伝えようと、各地で戦争資料館づくりが進んでいる。第二次世界大戦中の兵士の遺品や空襲被害の記録などを展示して語り、東北、四国、近畿、中国、九州などで戦中したものも含めて公開施設だけで二十数カ所ある。戦争被害を伝えるだけでなく、アジアの国々に対する加害責任を明らかにする試みも始まっている。

戦争資料館は一九五五年に広島市の原爆資料館、長崎市の長崎国際文化会館が「イーブン」その後、八〇年代に入り、て建設計画が次ぎ、沖縄県糸島市に民間法人娘々姉・高友あひめゆり回郷会が建設したひめゆり平和祈念資料館、仙台市の市飛翼市史記念館、静岡県浜松市

の松原町、京都府十五旗以上になる。

豊後市の豊後引揚念願、
大阪府堺市の市平和と人権
資料室、大阪府と大阪市が
共同出資したビースポーズ
か（大阪国際平和センター）
）、立命館大学（京都）
国際平和ミュージアムなど

このほか、埼玉県が松本市に昌平和資料館をこのほど建設し、八月一日にオープンする予定。計画中や検討中の自治体は神奈川県、滋賀県、東京都、広島県、山形、高松市、兵庫県伊丹

市、同郷市など。同丸五年度中の開館を目指して東京に戦後遺蹟平和祈念館（仮称）を建設する。埼玉県平和資料館は、鉄筋三階建て延べ二万九百三十平方。格戦前日の八月十四日の開館空襲をテーマにアニメを製作して上映、定のテーマを扱ったものか

て群馬県沼田中の東京都市
高松市なども加害の歴史を
探り入れることを検討す
る、という。このほか、川
崎市平和館のように胆沢環
境破壊や途上国の貧困など
を取り上げる施設もある。

「日本の戦争責任資料セン
ター」の設立運動に取り

戦時下の生活を伝える資料
など約六頁点を展示する。
子どもたちに戦争を肌で感
じてもらうため、防空ごう
が創られて灯火管制をした
戦時中の民家や戦時中の救
護などを再現した。
五月二十三日に開催した
ら、「十五年戦争」全般に
目を向ける施設が増してい
る。日本の加害責任を問ひ
かけるものも目立ち、九一
年九月にオースンしたビー
スおおさか県南東京府や朝
鮮や中国での植民地支配に
ついでに資料などを展示。

たことがあるのではないか。市民が戦争について考える機会が増えることは歓迎すべきことです。資料の収束、公開や、戦争を再び起こさないための平和教育をさらに進ませるべきだ。